

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101511		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす二番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208番地		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 22 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスが長く続くGHでは、感染症を持ち込まないことがサービスの一步、今一番の目的と自然となっている。したがって二番館の目標、家庭的な温かい生活を毎月のイベントで一時を楽しんでいただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101511-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 29 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3名の管理者の仲の良さが、評価中にも伝わってきて、和気藹々とした雰囲気の中で、見学・聞き取りを実施することができた。3名の管理者は「職員が健康・笑顔でないと、利用者を笑顔にすることはできない」と考えている。勤務表を作成し、体調管理だけでなく、希望休や有給休暇を積極的に取得できる職場環境を整えてきた。職員の家の庭で咲いた、四季折々の花を施設に持ってくることで、利用者に癒しを与えている。春先には、山桜桃(ゆすら)の木を持って来たり、桜の木の枝を室内に飾ることで、満開の桜のように昔話にも花が咲いた。外出支援にも力を入れて、春には、後楽園付近や万富方面へ出掛けて満開の桜、桜の蕊降る景色を見ることができた。山陽町の足腰神社に足を伸ばし健康祈願を行い、秋には、閑谷学校へ紅葉狩りに、初詣は牛窓神社にお参りに行った。近場では、散歩がてら近隣の公園や神社に行き、手を合わせる事が日課となっている。利用者には、ドラマチック問題や事情があっても、職員がそれを認めて、尊敬しながらも馴れ合いではなく、家族のように温かく親しみやすく接することで、アットホームな施設を実現していた。管理者や職員の前向きさが目立つ施設であった。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族のような暖かな雰囲気を作り、介護度が異なってもみんなで笑える家庭を作っている	法人理念は事務所、介護理念は各ユニットの入り口、年間目標をリビングに掲示していて、管理者が目標を決めている。ユニット会議の際に、振り返りの場を設けている。管理者は思いは、利用者に寄り添った優しい介護に徹している。	理念を周知・徹底できるように工夫をしてみてはいかがでしょうか。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会ができない状態であるが、地域の方が四季折々の花又は野菜を持ってきてくださり、入居者様の様子をお伝えしている	町内会に加入していて、回覧板から地域の情報を得ている。近隣の飲食店のオーナーの方と職員が知り合いで、情報交換ができています。飲食店の広い敷地を利用して頂き、散歩や満開の桜を見ることができた。近隣住民からの野菜や生花の差し入れがあった。施設の周りを散歩した際に、畑の所有者と挨拶を交わす関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くの桜の木がある家から、桜を見に来るように声を掛けていただき天気の良い日は散歩に出かけている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来の運営推進会議ではないが、グループホームでの生活の様子、入居退去の状況等を発信している	コロナ前には、近隣住民、民生委員、地域包括、町内会長が参加していた。一番館と二番館の合同で開催していて、入居者状況や行事の報告を行った。令和5年度より、書面郵送を再開する予定である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター担当者と運営推進会議等で連絡を取って地域の方々へ情報を伝えている	福祉事務所との連携は、各ユニットの管理者が窓口となっている。必要書類は、郵送することが多いが、直接持参する場合もある。わからないことがあれば、電話をしたら親切・丁寧に教えて頂いたこともあった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓の開放、玄関の開放、会社として身体拘束廃止に関する指針を作って対応している	年4回、虐待・身体拘束委員会を開催している。虐待や身体拘束をしないケアの知識や感情労働によるストレスの対処法について話し合いを行った。事例検討や意見交換の場を設けることで、職員が日頃の介護について振り返ることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を行い特別なテーマではなく日ごろの様子疑問点などを話し合っ虐待につながらないように注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に成年後見制度を利用している方がおられ勉強するチャンスを生かしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居当日には十分な説明時間が取れないケースが多いため前もって書面をお渡しし確認をさせていただいたり、入居後には不明な点をお聞きするようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が希望され、退居結婚される自由な機会があった	日常生活の様子を写真に撮り、家族に送信することで、家族の安心感に繋がっている。2ヶ月に1回「家族通信」に写真を添付して、担当者から溢れんばかりのコメントが家族の楽しみとなっている。家族からは、沖縄よりマンゴー、果物、クッキーや本、スカートの差し入れがあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っているカンファレンスの中に会社の方針、業務の見直し等の項目を持って提案等を吸い上げるチャンスを作っている	何かあれば随時、管理者が話し合いの場を設けている。3つのユニットの管理者同士仲が良いので、何でも相談し合える関係となっている。解決できない場合は、エリアマネージャーに相談することもある。申し送り時や各ユニット会議の際に、意見が飛び交っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリアマネージャーを4名配置し、細かい情報を悩み事相談など、人間関係の改善などを努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報などを休憩室にファイルをしったり見やすいところに掲示したり自己啓発する機会を持っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を常に持ち知り得た研修内容をホームで勉強会に取り入れ実践している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のそばに寄り添って有限無限の言葉を聞いて本人の望みを理解し安心できる居場所づくりを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にインテークで、できるだけ多くの情報を取り込んで入居すると同時にスタッフ全員で取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークだけでは、現実的生活を送っていただけない為に、入居と同時にしっかりとスタッフの記録とコミュニケーションを心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機掛け、食事の準備や食事、片付け、洗濯、洗濯干し、洗濯たたみを行っていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	少ないながらも、年4回の和楽だよりを担当スタッフ が書いて生活の様子をお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある地域の話題と行事などをテレビや新 聞で読んで思い出話をしている	面会是对面も可能で、短時間・少人数・玄関先で ビニールカーテン越しで実施している。オンライン も時間制限を設けて受け付けている。自分の携帯 電話で、家族の方と通話を楽しんでいる方もいる。 利用者同士が今ではすっかり馴染みの関係とな り、会話が弾み、微笑ましい姿が窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	価値観の違う者同士がお互いに認め合えるように それぞれを尊敬の思いで接しその方々に合った話 題を話しながら孤独にならないように支援をしてい る		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退去した後も、必要に応じて家族の相 談などに対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者様個々に合った声掛けをして、表情顔色食 事の摂取の状況確認しながら自己決定しやすい環 境づくりをしている	裁縫が得意な方に、ボタン付けをして頂いた。夜 になると不穏になる方がいて、職員は利用者へ寄 り添うことで安心感を与えている。入居時に生活 歴・人生のエピソードシートに、家族や昔のこと、 性格を記入して頂いている。わからないことは、家 族に聞くこともあり、お風呂や居室の1対1の場面 で意見が言いやすくなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	本人が安らかに自分らしく暮らしていくことを支援し 愛着のあるものを身近に置き安心していただきな がら生活の中でその人らしい生き方が出来るように している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が一番過ごしやすい空間を作り一人でも多くの入居者様の笑顔が出るような環境づくりに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の考えではなくスタッフ同士で気付きやアイデアを出し合い話しあった結果をもとに作成している	入居時に暫定プランを立て、3ヶ月後にモニタリングを実施し、何もなければ6ヶ月で見直している。担当制を敷いているが、ケアマネジャーも介護職に従事しているので、情報共有がしやすくなっている。生活援助計画及び見直しシートに、困っていることや短期目標を掲げ、実際の支援経過を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活リズムを知り少しでも動き方に変化があれば記録に残しスタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	犬の大好きな入居者様の為に、近くのドックランに見学(散歩)に行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用を以前から計画しているが、新型コロナウイルス禍の為、再度検討している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医師、看護師とスタッフが密にいつでも連絡を取り合い家族や入居者様が納得のいくように支援している	かかりつけ医は、入居時に選んで頂けるが、ほとんどの方が協力医に転医されている。往診は月2回あり、ドクターの関係も良く、何でも相談できる。薬剤師の訪問もあり、親切丁寧に対応して頂いている。他科受診は、基本は家族対応だが、緊急時には職員が同行している。週1回訪問歯科が来られ、歯科衛生士が口腔ケアをして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者様の変化を看護師に報告相談して適切な対応をするように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には治療が終わり次第出来る限り早期の退院が出来るように病院と連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今期は、2名の方が看取り対応となり、利用者様・ご家族にそった終末を全スタッフが迎える事ができた	看取りは実施していて、数名の方の看取りがあった。入居時に、「GHでの看取り介護サービス対応指針」にて説明をし、同意を得ている。終末期に差し掛かった場合には、再度、本人・家族の意見を聞き、ドクターの意見も参考にしている。終末期に入ると看護師や職員の意見を参考に計画を立てることで、安心感に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一の対応の為AEDを設置いつでも利用できるように体験勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と避難訓練を実施している。また、運営推進会議で地域住民の方々への協力を呼び掛けている	年2回火災訓練、年1回土砂災害対策を実施した。水消火器を使った消火訓練や連絡網を回しての通報訓練も実施できた。連絡網は各ユニット事務所に、ハザードマップは玄関と各ユニットの事務所に掲示している。備蓄は同法人内のGHのコンテナに水や食料、寝具を一括保管している。	災害対策について、今一度見直してみてもいいかな。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の気持ちの思いを傾聴しながら尊厳やプライバシーの配慮を心かけた対話に努めている	呼称は苗字に「さん」付けを基本としているが、反応がいい場合や本人・家族が希望する場合には、別の呼び方をすることもある。職員は言葉遣いに留意して、自分の親に対する思いで接している。利用者の立場になり、考えて支援することを大切にしている。虐待防止委員会や、ユニット会議の際に、言葉遣いについて気を付けるようにと意見が出た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う中で自分の望みを話されることがあり、その事柄を他の職員と共有し自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活を尊重しながら和やかで張りのある日常生活を送って頂けるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴し清潔を保持し好みに合った清潔な服を着用していただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら食事ができるように楽しく語らいながら共に食事をするよう努めている	朝はケイタリングで、昼夜は食材が届き、施設内で調理している。昼食は職員も利用者と同じテーブルで同じ物を食べているが、現在はコロナということもあり、見守り体制で食している。おやつ作りとして、ホットケーキや白玉団子、パンの耳を揚げて砂糖をまぶした物が好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を考慮しながら栄養量、水分量を顔色、表情、体調を観察しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた支援をしている。毎食後必ず口腔ケアの声掛けをしている。また、歯磨きがきちんときれいに行っているかチェックさせていた		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し一人一人の排泄パターンを確認しながら誘導や声掛けをしている。一人一人の人格を尊重しながら支援している	排泄チェック表を活用しているので、排泄パターンを把握することができ、失敗やパットの使用量が減った。失敗した場合には、「洗濯するから大丈夫よ」とさり気なく耳元で言葉を掛けるように工夫をしている。自分が納得するまで、後始末をしてから職員が綺麗にする場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等を取り入れ水分の摂取を記録しながらしっかり摂取していただいている。栄養バランスの良い食事にも努力し便秘予防を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方には見守りをして安心して入浴していただいている。一部介助、全介助、一人一人の状態、希望を考えて対応し気持ち良い入浴支援を行っている	週3回で、介助がない方は午前、介助がいる方は午後に入浴して頂いている。入浴剤を毎日使用することで、自然の気分を味わうことができている。季節湯としてゆず湯の提供も行った。入浴表を貼ることで、いつ入浴するのかがわかるように工夫している。拒否される方へは、「汚れているから入ろう」と言葉掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールに出てきて活動を促し夜間良眠出来るよう生活リズムを整える支援をしている。一人一人の体調を考慮し安眠や休息の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成していつでも情報を確認できるようにしている。服薬時は職員が二人で確認したうえで必ず手渡しをして飲まれるまで目配りをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや日々の楽しみなど気分転換の支援を心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ禍、ドライブが主の外出では海の見える景色の良い場所でアイスクリーム又はタイ焼きを食べていただき危険のない対応をしている	後楽園付近にドライブへ行き、桜を見に行ったり、春の風を感じることができた。アイスを食べ、西大寺の観音院で記念写真を撮ることができた。ドックランへの散歩が毎日の日課となっている。秋には閑谷学校へ紅葉を観に行くことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望等に応じて外出時に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に年賀状を出したりいつでも電話をつないでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節にあったお花を生けたり、貼り絵をしていごごちの良い空間を作っている	男性利用者同士がTVの前で、時代劇を観て過ごしていて、会話が弾んでいた。ラジオ体操が日課となっている。絵が上手な利用者が書いた似顔絵が飾られていた。7段の大きなひな人形を飾ることで季節感が味わえている。準備の際には、利用者と職員が一緒になって飾ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分ではテレビ、カラオケ、CD等を流して一人一人の希望をかなえている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みを尊重し特に移動時には障害とならないよう安全を心掛けて、必要以上の物は置かないよう配慮している	窓の外から隣の畑の作物が見え、植物の成長を感じ取ることができる。木に実ったみかんを見るのが楽しい利用者もいる。居室内は、大好きなクラシックカーやバイクの写真が飾られていて、車関連のマンガが並んでいた。備前焼の福助の置物があり、毎日頭を撫でることで幸福感が得られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を最大限生かせるよう補助用具を活用したりきめ細かい見守り等で生活環境に応じた支援を行っている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				